

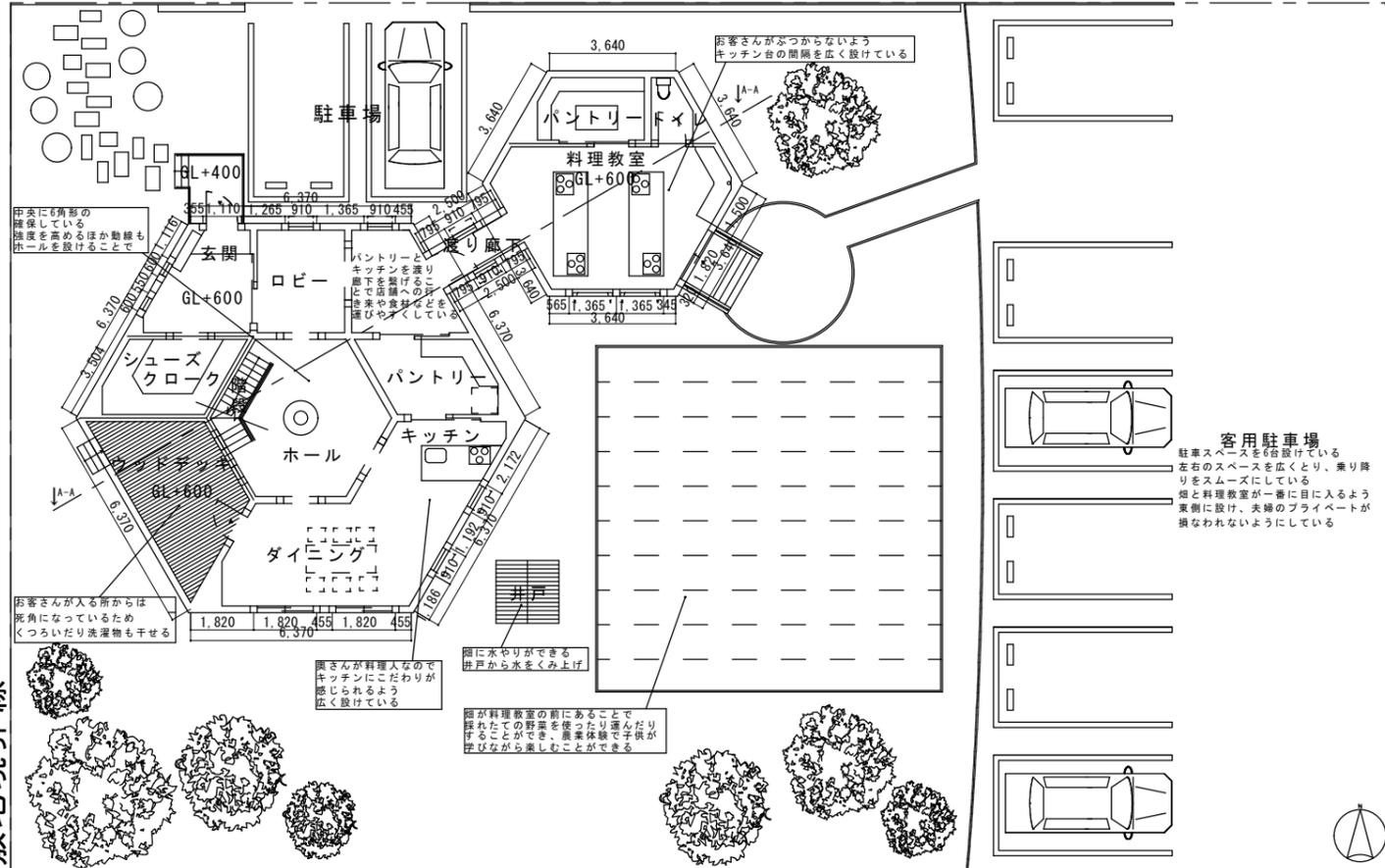
CONNECT

道路

歩道

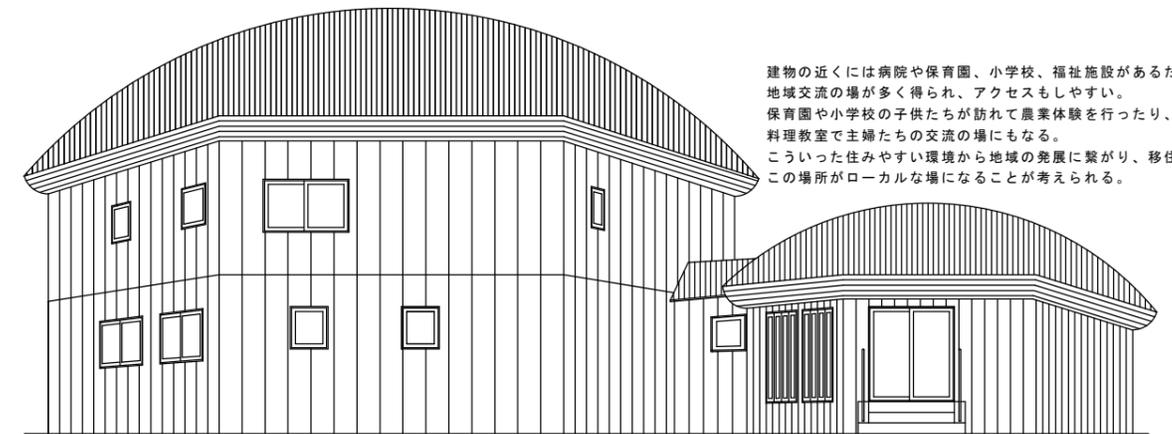
道路境界線

敷地境界線



コンセプト

【人が集まる家】とは何かを追求し、【繋がり】が大切だということに気が付いた。は【繋がり】を1番に考え、住宅兼店舗を設計した。課題である【多くの人が見向きもしない地域】が私の住んでいる茨城県が、魅力度が最下位ということもあり最適だと考えた。その中でも人口の減少が最も激しい地域に着目した。人口減少が激しい地域に新たな価値を生み出すために必要なのは、抽象的ではあるが他にはない魅力的なものと、そこで暮らしたいという気持ちである考えた。そしてその地域に1番人を繋ぎとめるのは人との縁であると考えた。昨今では都心から地方に移住するひとが多いため、私は居住者を【移住してきた人】に設定した。移住者がその地域の良さを伝えることで元から住んでいる人じゃわからないような良さや他の移住者を増やす目的もある。そのため店舗は料理教室にしその地域の特産物や郷土料理を知ることで、その地域の良さを広げられると考えた。そのほかにも料理教室は複数回行くことが予想されるため、人との繋がりが多くなり地域に住まう人との関りができ地域の活性化も行えると考えた。敷地内の畑で特産物の栽培も行っている。住宅の屋根は茅葺きでできていて地域の文化財である【平井家住宅】に肖り、住宅の形を六角形にすることで他からの関心を寄せつつ、構造的にも強くし多くの人の印象に残るような設計を行った。



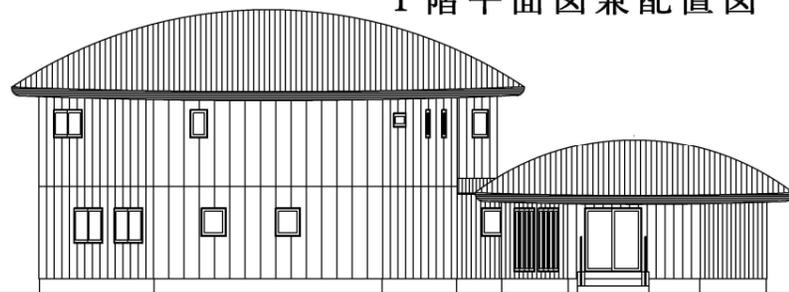
家族構成

夫
30代。都内で会社を営んでリモートワークで仕事をしている。畑は妻の料理教室のために始め趣味程度。料理教室のサイト運営や子供向けに農業体験などを行っている。

妻
30代。元料理人。田舎に暮らしたくて移住してきた。料理人時代の腕を活かし料理教室を運営している。

1階平面図兼配置図 1/100

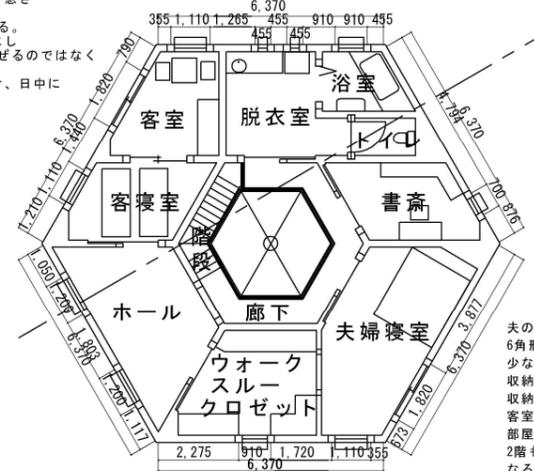
敷地境界線



屋根は平井家住宅をモチーフに茅葺き屋根でできていて、ドーム型になっている。茅葺きに合わせて壁を木目調にし全体的に古民家のようなデザインになっており六角柱にドーム屋根が乗りキノコのような見た目が人の目を惹き印象強く残るようなデザインになっている。押し出し窓多くして雨の日にも窓を開けるようにしている。棟を2つに分けることで生活空間とワークスペースを明確にし地域の良さを引き出すローカルな面と生活する家の面を混ぜるのではなく個々で良さを互いが引き出すようにしている。建物が六角形なので採光がとりやすいので開口部を多く設け、日中に暗くなる場所が少なくなっている。



居住棟の中心に400×400の円柱を設け強度の問題を解決し、吹き抜けになっているので2階の廊下から1階のホールが見えるようになっている。渡り廊下で切り建物とどのように繋がっているのかを分かりやすくしている。料理教室から渡り廊下、パントリー前の動線に拘ったのでその箇所がより分かりやすいように切っている。木造の強度問題を解決するため壁の厚さを上げ、ホールの六角形状の壁で柱の間隔をなるべく広く揺れるようにしている。料理教室の窓は折り畳み式で開口幅が大きくとれるように設計している。



夫の仕事部屋として書斎を設けている。六角形なので1つ1つの部屋が狭く感じるため収納をなるべく少なくし、少しでも広く感じられるようにしている。収納の少なさを補うためにウォークスルーを設け収納のための部屋を確保している。客室と客室として部屋を分け、将来子供が増えなくても部屋に困らないようにしている。2階も1階と同様に中心の廊下を軸に動線がスムーズになるようにし、夫婦寝室とトイレを近くすることで老後にも心配ないようにしている。

保育園



設計した住宅



平井家住宅周辺地図
福祉施設